

講義名	芸術事業論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	相澤 孝司		
開講期・曜日・時限	後期 水曜日 1時限		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	31050

主題と概要

本講義では、事業活動や経済活動を実施する時に、芸術がどのような存在意義をもつのか、具体例をまじえながら解説していきます。

芸術活動は、経済や社会から一見かけ離れたところにあり、特殊な活動のように思われがちですが、実は極めて重要な要素であり、むしろ事業活動の中心になることが理解されるでしょう。

しかし、芸術は知識として理解するのでは無く、自身の感性の中に育てる心が必要です。たぶん学生のみならずの中には、すでに持っていると考えられますが、本講義を受講して興味を持って育てて下さい。

芸術性のある事業のあり方を学習し、「デザイン」についても正しく理解しましょう。

到達目標

デザインの発生を歴史から学習し、デザインと事業活動や経済活動が深く結びついていることが説明できる。

芸術とデザインに関心を持ち、積極的に展覧会やアートイベントなどに出向き、自分自身の感性を磨けるようになる。

観光産業とデザイン及び芸術との関係は特に深く、直接的なつながりも多くあることが理解できる。

提出課題

特になし

評価の基準

出席点 20%
 中間レポート 30%
 期末試験 50%

授業の出席点の目安として、2/3以上であること。
 授業開始から7週目に中間レポート試験を実施する。
 期末試験は、レポート試験を予定しており、その内容は後日ポータルに掲示する。

履修にあたっての注意・助言他

デザイン・芸術に関する予備知識がなくてもぜひ受講して下さい。

教科書

プリント資料及び参考文献

オリジナルのプリントを授業時間ごとに配布します。

<参考書>
 「日本デザイン史」
 監修：竹原あき子・森山明子 美術出版社
 「世界デザイン史」
 監修：阿部公正 美術出版社

授業計画

1. 芸術事業論の考え方、授業内容の解説及び評価方法
2. 環境芸術について・環境芸術の事例紹介「六甲ミーツアート」と地域のアートプロジェクト
3. 都市空間と芸術について・神戸における夜景とは「1000万ドルの夜景について」
4. 色彩にみる芸術について・カラーデザインの事例紹介「船体のカラーデザインと目立つ色」
5. 芸術と技術・デザインの発生、デザインとは
6. 日本のデザインを考える・デザインと産業について
7. 中間レポート「グッドデザインを探せ」
8. 日本のデザインを考える・デザインと照明について
9. 日本のデザインを考える・デザインと環境について
10. 世界のデザイン「イタリアと北欧のデザイン」
11. イベントと芸術について・博覧会にみるデザインと芸術
12. 芸術事業のあり方・デザインと発想法
13. 芸術事業のあり方・イサム・ノグチについて考える
14. 芸術事業のあり方・レオナルド・ダ・ビンチについて考える
15. 芸術事業論のまとめ・小林一三のグランドデザインについて考える

予習・復習

予習
 次回の講義に関連するキーワード（5個前後）をスライドで示し、その意味や作品の画像などを理解して当日の講義に臨むこと。

復習
 受講した講義の内容で、特に印象に残った芸術・デザインについて、配布したプリントを参考に100～200字程度にまとめ

備考

特になし